

読者のひろば



読者の皆様からいただいたお便りの中から、ご意見や情報などを紹介します。

2

月3日は節分！そして大安—どつ菜市場に買い物に

立ち寄ると、偶然にも豆まき前で、盛大な豆まきは久しぶりで盛りあがりました。福が来ますようにと欲を望みたいですが、平穏な暮らしができる生活に感謝したいと思います。人との縁、言葉のありがたさ、健康で過ごせる、何事も感謝していきたいです。(ふーちゃんさん・女性)

節分は季節の始まりの日の前日を指し、江戸時代以降では立春の前日を指す場合が多いそうです。季節の変わり目に生じるとされる邪気を追い払うために「鬼は外、福は内」と唱えながら豆をまき、年齢の数だけ豆を食べる、というのが一般的。もしかすると、子どもたちやお母さんから豆を投げつけられる日と認識しているお父さんも多いかもしれません。豆まきのやり方は千差万別。大事なことは、「家内安全」を願う気持ちではないでしょうか。

鹿

屋航空基地史料館で零戦が復元されていることを広報か

やで知り、20年前、子どもたちが小学生か中学生の頃に一度行ったきりなので、また行ってみようと思いましたが、2月22日で私も60歳。還暦になり、これから老後のことについて、自分がこれから先どう過ごしていくか少しでも考えてみるのもいいかと思っています。(あけさん・女性)

海上自衛隊鹿屋航空基地史料館は、昭和11年に海軍鹿屋航空隊が開隊して以来、現在に至るまでの豊富な史料を見学できる施設です。小説「永遠の0」にも登場する「零式艦上戦闘機」の復元展示や旧日本海軍創設期から先の大戦までの史料展示のほか、現在の海上自衛隊の活動状況などをご覧いただくことができます。「過去」を学び「今」を知り、そして「未来」を考えるきっかけとして、ぜひ多くの人に訪れていただきたいと思えます。

2

月号の「自分らしく次の世代へ橋渡しを」を読み、祖父(95歳)と重なる部分が多かったです。

昨年の秋頃までは町内でも有名なくらい元気で、原付バイク・キャリー・自転車など乗りまわしていました。が、寒くなるにつれ家からあまり出ず、今ではカートを押してヨロヨロ歩くようになりました。今の私ですらエンディングノートを書くのに時間がかかると思います。「若くても意思決定を」との言葉はその通りだと思いました。今のうちにたくさん家族内で話をする事、とても大事だと思いました。(りかごんさん・女性)

広報かのかや2月号では、人生の最後に向けた準備(終活)の中でも、残された家族に思いをつづる「エンディングノート」について特集し、市民の皆さんから大きな反響がありました。「次の世代に後悔なくバトンタッチすること」の大切さを、多くの人たちが強く実感しているのだと感じます。歴史はバトンタッチの連続で紡がれ、思いはつながっていきます。皆さんも後悔なく、しっかりと次の世代へバトンをつないでいきましよう。鹿屋市のエンディングノート「私の想いノート」は、市高齢福祉課及び総合支所住民サービス課、包括支援センターで無料配布しています。

フォトネタ！



曾田坂のコブシの花

初春を告げる花として街路樹でよく目にする白いコブシの花。別名「田打桜」と呼ばれ、昔はこの花が咲く頃を目安に田植えをしたそうです。

先日、リナシティの映画館を利用させてもらいました。普段は鹿児島市の映画館に行くため、初めてリナシティの映画館に行き、近くにこんな良いシアターがあることにとても嬉しくなりました。次もぜひ利用させてもらいたいと思います。(S・Tさん・女性)

平成26年3月に、映画「そして父になる」の舞台挨拶でリナシアターに来られたリリー・フランキーさんが「ごんなに小さかろうが、どんなに遅れて上映されようが、映画館があるという事は地域の宝なんだ」とおっしゃられました。リナシアターは68席のミニシアターで年間10作品程度の上映ですが、大隅半島唯一の映画館です。「地域の宝」となるよう、今後も皆さんにとって身近でアットホームな映画館であってほしいですね。